

■中央公園第二期整備のコンセプトとゾーニング

1 中央公園第二期整備の must 機能

(1) 緑のネットワークを実現

都市計画マスタープランと緑の基本計画が策定され、緑のネットワークを形作る要素として、毘森公園と中央公園を東西軸の緑の拠点としての役割を位置づけています。

- 豊田市都市計画マスタープラン（H30年3月に策定）
- 豊田市緑の基本計画（H30年3月に策定）

⇒「緑の内環」として、都心に潤い等を与える環状軸を形作る重要な要素
⇒「緑の環境都市軸」として、東西軸の緑の拠点とし、都心との連携強化の要素



(2) 防災機能をさらに強化

中央公園エリアは東海豪雨の記憶が根付く場所であり、東海豪雨から18年経ち、その記憶と共に森林の大切さを次世代に受け継ぐことが必要です。

この場所で大雨時の湛水機能を確保し、さらに地震時の避難エリアとして位置づけることで、中央公園エリアの防災機能をさらに強化するとともに、防災意識を高めることにつながります。

- 東海豪雨の記憶を受け継ぐ
- 中央公園第二期整備で実現する、防災機能の強化

(3) 超高齢社会において、心地よい居場所の提供

市の重要課題である超高齢社会へ適応するため、誰もが安心して、健やかに自分らしく暮らしていく中で、多世代が様々に交流、共生する機会を創出し、心地よい居場所を提供する必要があります。

つかう（実験的な活用） → つくる（設計・整備）
新たな活用 → 活用での意見を反映

↑「つかう」と「つくる」のサイクル↓

つくる（部分改修・将来形） → つかう（本格運用）
本格運用により必要となる部分を → 実験的活用での課題を踏まえ本格運用

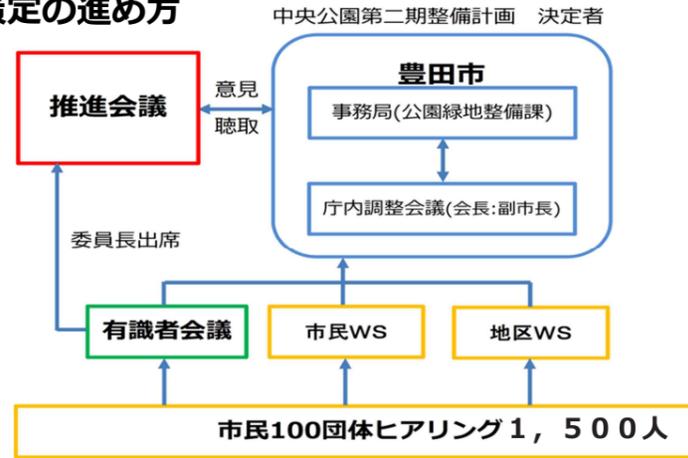
- 市の重要課題への使命※第8次豊田市総合計画
 - (1) 超高齢社会への適応
 - (2) 産業の強靱化
 - (3) 暮らしてよし、訪れてよしの魅力創出
- 市民が「つかう」と「つくる」の主役となる、計画・運営の仕組みづくり

(4) 都心における賑わいづくりの促進

第8次総合計画、都市計画マスタープラン、緑の基本計画といった市域に渡る計画のほか、都心環境計画や中活計画、矢作川かわまちづくり計画、文化ゾーン構想など、都心に関わる計画が策定・推進されていく中、中央公園の整備は市民生活の質を更に向上させ、都心の賑わいを促進します。



2 計画策定の進め方



3 市民志向把握や有識者等知見の取り込み

○市民ヒアリング（5月～8月実施）⇒統計学手法による意見の解析
⇒公園づくりへの市民志向（公園で思い描いたシーン）を見出すためのヒアリング

■団体代表者ヒアリング（目標100団体）
⇒つかうとつくるの仕組みづくりへの関わりを期待する団体の代表者を訪問し、公園でやりたいことやイメージする空間像について聞き取ります。それぞれの思いがぶつからない環境を用意することで、より自由な意見を引き出す環境でヒアリングを行います。

○ヒアリング団体：子育て、子ども育成、学生、観光資源、生涯学習、スポーツ、地産地消等

■団体メンバーヒアリング（目標1,500人）
⇒代表者ヒアリングを行った団体で、メンバー等の10～20人を集めたヒアリングを実施します。同時に異なる角度の意見を

★ヒアリング意見について、統計学手法を用いて定量的に分析（テキストマイニング）



○有識者会議（計4回実施）

⇒行政上必要な機能の整理、専門的な見地による助言

都市計画：小林正美 明治大学副学長
造園公園：武田重昭 大阪府立大学 准教授
農地森林：澁澤寿一 共存の森ネットワーク理事長
都市防災：廣井 悠 東京大学大学院准教授

○推進会議（第1回 8月10日実施）

⇒計画策定に関して、関係者との意見交換

計画の策定に関すること、計画における活用及び整備に関すること、その他推進会議の目的を達成するために必要な事項について、協議及び意見交換を行う。
メンバー：市長、豊田商工会議所、トヨタ自動車、名古屋鉄道、豊田まちづくり、スタジアム、区長会など

4 コンセプト案

■中央公園が持つ地歴の継承

市町村合併のきっかけとなった東海豪雨とその舞台となった記憶を次世代へと受け継ぎます。この場所で「森林の大切さ」を実感するためには、木と水の循環を見せることが重要で、その体験を市民の心に根付かせるために、魅力的な空間づくりを考える必要があります。

「木、森、矢作川とのつながり」 = 木や水、自然に触れながら「森林の大切さ」をレガシーとして伝える
（仮称）フォレストレガシーパーク



※市民意見をベースにコンセプト案の検討



※市民意見をベースに公園づくりテーマ案の検討

5 公園づくりのゾーニング案

「森林の大切さ」をレガシーとして伝える（仮称）フォレストレガシーパーク



■ヒアリング結果

団体代表ヒアリングと団体メンバーヒアリングを全て統合した結果を分析しました。

5月7日
～6月30日
団体代表ヒアリング
(102団体)



7月1日
～8月17日
団体メンバーヒアリング
(1052人)



上記の二つのヒアリング結果を統合して
全102団体1052人分の回答について分析した
結果を以下に示します。

■テキストマイニングを用いたヒアリング回答の分析

現時点での回答内容(キーマンヒアリング)に対してテキストマイニング分析を使用し、
自由意見の定量的な分析を行いました。

※テキストマイニングとは単語のつながりや分布のパターンを定量化し、統計学的手法を用
いて自由意見の集合に隠れた意味や本音を読み取りやすくする手法です。SNSから
流行を探る調査等にも使用されます。単語同士の繋がりの強さと単純な出現の量から意見
の強さや発言の背景等について分析を行います。

出現した単語群を見ると特徴的なまとまりとして「川や森、さらにその資産である木製品といった水
系のつながりを想起させるような組合せ」と「スタジアム等との施設連携を想起させる組合せ」が見ら
れます。

これは、個々の意見において、木製遊具等での市産材の活用、木によるふれあい・憩いの提供が、
また、サッカーやジョギング等のスポーツ利用への期待が、意見として多く見られたことも要因にある
と考えられます。

順番	出現量	結束度	ピース1	ピース2	ピース3	ピース4	ピース5	ピース6
J01	48	1.59	子供	遊べる	遊具			
J02	44	1.22	緑	花	多い	公園		
J03	35	1.3	カフェ	必要	周辺	駐車場	スタジアム	
J04	35	1.25	公園	自然	連携	緑		
J05	30	1.62	スカイホール	スポーツ	スタジアム	連携	グラウンド	体
J06	30	1.51	中央公園	矢作川	周辺	整備	近く	水
J07	30	1.27	木陰	ベンチ	休憩	多い	緑	木製品

※単語の意味

出現量とは、それぞれのグループの中の単語のうちいずれかを組み合わせて文中に出現した回数となります。(例J01)体験できる、～ができる施設 等

結束度とは、グループ内の単語同士の結びつきの強さを表しています。あるグループ固有の単語が多い程結束度が高く、逆に別のグループでも出現する単語が多い程結束度が低いという結果になり、結束度の大きいグループはより強い意見であり、限定的な意味を持ちやすいグループとなります。

順番	出現量	結束度	ピース1	ピース2	ピース3	ピース4	ピース5	ピース6
J08	28	1.26	高齢者	施設	休憩	ウォーキング	体	利用
J09	27	1.39	できる	体験	いろいろ			
J10	26	1.62	ランニング	ウォーキング	コース	自転車	休憩	
J11	26	1.41	子供	楽しめる	大人			
J12	24	1.2	場所	水	市民	大会	楽しく	
J13	22	1.55	鞍ヶ池公園	屋根	雨			
J14	21	1.33	長い滑り台	近く	いろいろ	ない	公園	
J15	20	1.56	予約	利用	できない	市民	自由	
J16	20	1.31	自転車	橋	ない	多い	車	できない
J17	19	1.29	自由	広場	芝生	イベント		
J18	16	1.42	アクセス	バス	駅	車		
J19	15	1.45	集まる	人				
J20	14	1.46	サッカー	大会	グラウンド	芝生		
J21	14	1.43	開催	イベント	マルシェ			
J22	13	1.26	アスレチック	大型	大人	体	楽しく	
J23	13	1.21	整備	管理	楽しく	遊具	野外	
J24	12	1.4	フェス	ステージ	野外			
J25	12	1.28	気軽	行く	駐車場	駅		
J26	8	1.34	噴水	水遊び				
J27	8	1.22	多い	テニス	スポーツ			
J28	6	1.18	楽しく	時間	スタジアム			
J29	5	1.31	綺麗	トイレ				
J30	5	1.25	何	できない	緑	鞍ヶ池公園		
J31	5	1.21	中央公園	良い	車			
J32	5	1.19	連携	エリア	いろいろ			
J33	4	1.21	キャンプ場	バーベキュー				
J34	3	1.26	屋内	ボルダリング				
J35	3	1.21	プール	屋内				
J36	2	1.25	近く	学校				
J37	2	1.25	山	地域				
J38	2	1.23	連れ	ドッグラン				
J39	2	1.21	活用	木製品				
J40	2	1.2	行う	水				

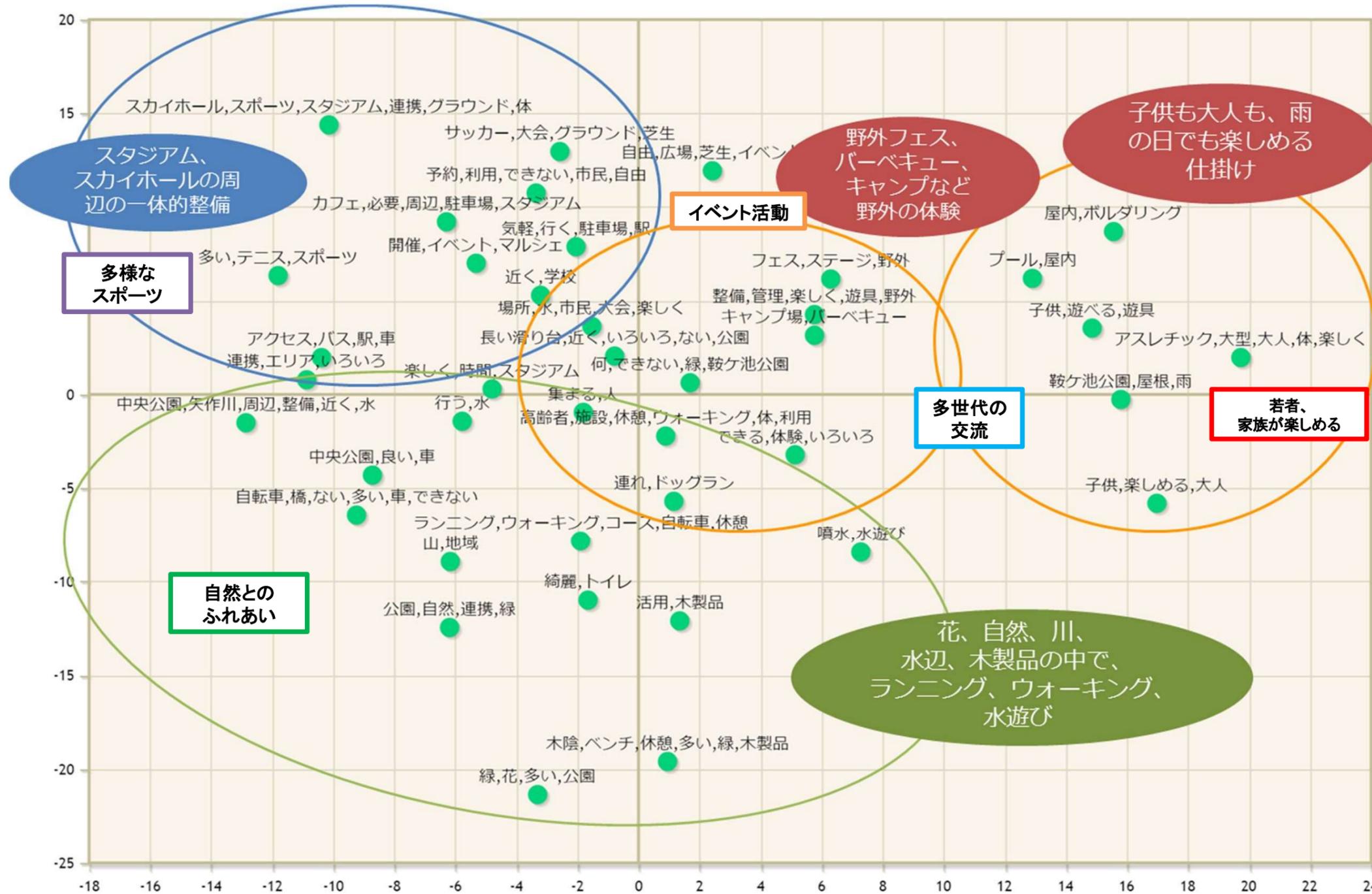
スタジアム

森・川

■ 中央公園の空間づくり-市民志向の把握・テキストマイニング分析

前頁で紹介した単語のグループについて、多次元分析による集計を行いました。下表は各グループ同士の相対的な距離をプロットした多次元データを二次元的に再解釈した表です。

ここでの各グループ同士の距離とは発言の背景(意図や要因)のつながりの距離の事です。近いグループ程似た背景から出た意見であり、遠いグループは対立した(関係の薄い)意見と解釈する事ができます。



発言の背景が似ているまとまりとして、自然とのふれあい、多様なスポーツ、イベント活動、多世代の交流や、若者・家族が楽しめる等が確認できます。

また、個々の意見においては、市産材の活用による木によるふれあい・憩いの場としての提供や、サッカーやジョギング等のスポーツ利用への期待が多く見られます。

また、子供だけでなく大人も楽しめるような多世代への目線が確認でき、森や川、木を主体とした自然との触れ合いといった意見と、スポーツを主体としたスタジアムとの連携に係わる意見のまとまりも確認できます。

イベント活動のような運営に対する要望も見られました。

これらの結果から中央公園第二期整備の五つのテーマを定めました。

■平成30年度ワークショップのまとめ

8/27から11/22の間に計5回のワークショップを経て市民意見の抽出と市民案としてのプランを作成しました。

ワークショップスケジュール

8/27 14:00-16:00 @レストランヴェルデロッソ

9/8 17:00-19:00 @高橋公民館

「キックオフワークショップ」

目的：計画状況の把握、公園の5つのテーマについて考える

9/21 14:00-16:00 @スカイホール

「第一回 市民・地区合同ワークショップ」

目的：具体的なイメージの展開(モノコトカードを使ったワークショップ)

10/26 14:00-16:00 @レストランヴェルデロッソ

「第二回 市民・地区合同ワークショップ」

目的：公園のつかい方をシミュレーションする。(ペルソナ法による行動シミュレーション)

11/22 14:00-16:00 @レストランヴェルデロッソ

「第三回 市民・地区合同ワークショップ」

目的：開園までの活動の展開を考える。

キックオフワークショップ

平成29年度から計画している中央公園の第二期整備構想について内容を共有しました。また構想の中で策定した中央公園の5つのテーマの中から重要だと思うものを2つ選び、それらについても議論しました。8/27ではドローンによる敷地の生中継も行いました。



第一回 市民・地区合同ワークショップ

市民ヒアリング、キックオフワークショップで抽出した意見からイメージのモノコトカードを作成し、各班でやりたいコト、ほしいモノについてイメージをより具体化して議論を行いました。



第二回 市民・地区合同ワークショップ

市民ヒアリング・キックオフ、第一回のワークショップまでの意見を参照しながらプラン案を作成。架空の人物を設定し、そのプランの中で自分とは異なる属性の行動を予測して議論を行いました。(ペルソナ法)



■平成30年度ワークショップのまとめ

8/27から11/22の間に計5回のワークショップを経て市民意見の抽出と市民案としてのプランを作成しました。

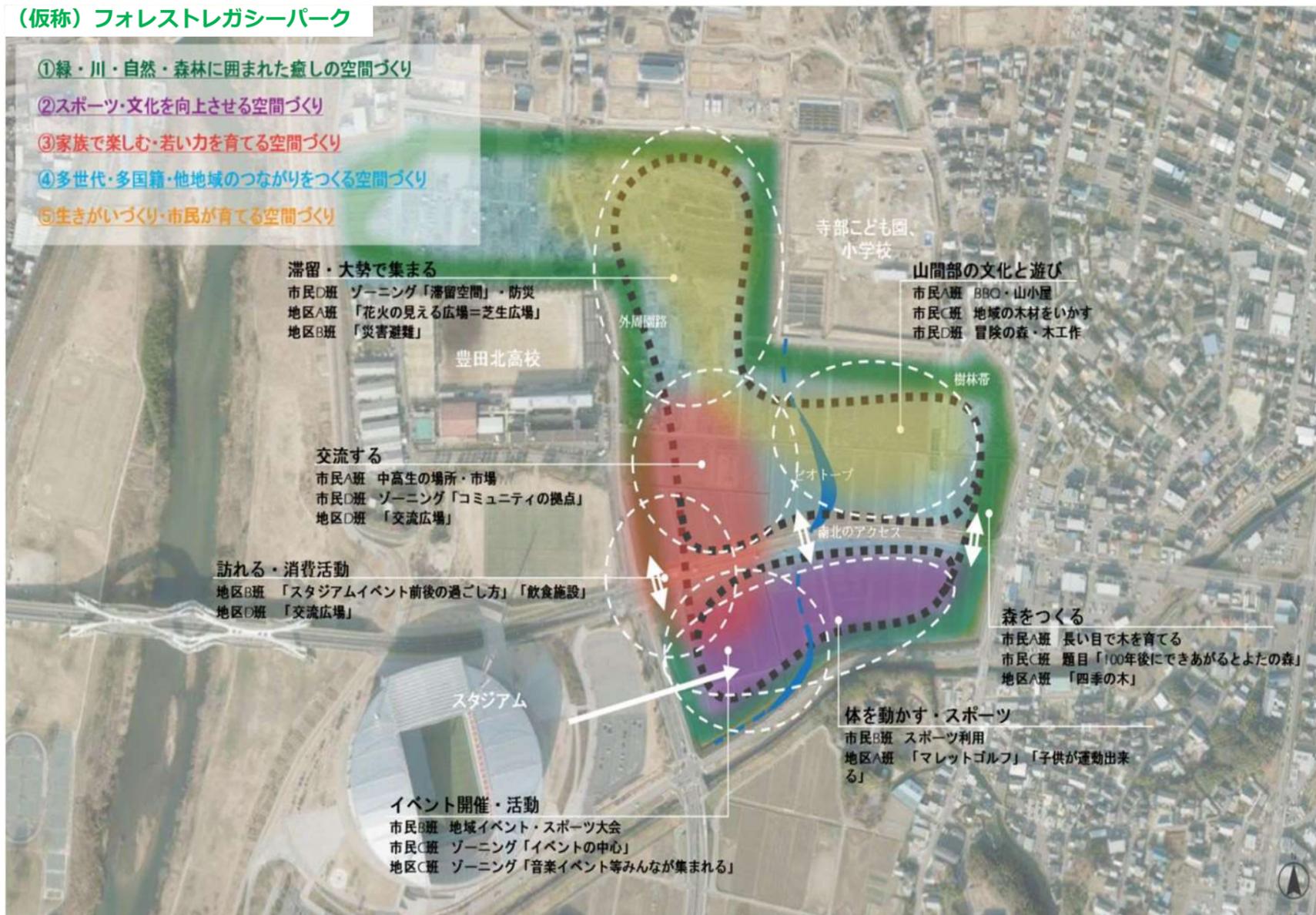
第三回 市民・地区合同ワークショップ

第二回のワークショップを経て微修正を施したプランを市民ワークショップ案として共有し、これまでのワークショップを踏まえた計画について再度確認を行いました。また、開園まで10年程度の長い期間を要するため、その間に出来る活動について議論を行いました。



市民・地区合同ワークショップで議論したゾーニング図

市民意見から導いたコンセプトと公園づくり5つのテーマに基づいて、市民・地区合同ワークショップでは以下のゾーニング図を用いて、議論を行いました。



来年度以降の市民活動案

第三回市民・地区合同ワークショップの中で用意したワーキンググループ(森づくり、スポーツ、こども、健康づくり他)では以下のような活動の意見が提示されました。

・森づくり

森林組合(ウッディーラー)とコラボした森林ツアー、森づくりのビジョンの共有、再来年度以降の苗木の配布

・こども

木工教室、ウォークラリー、失敗しながら成長する体験教室、プレーパーク

・スポーツ

ランニングやウォーキングコースづくりのための体験⇒参加者の心地よい体験を抽出

・健康づくり 他

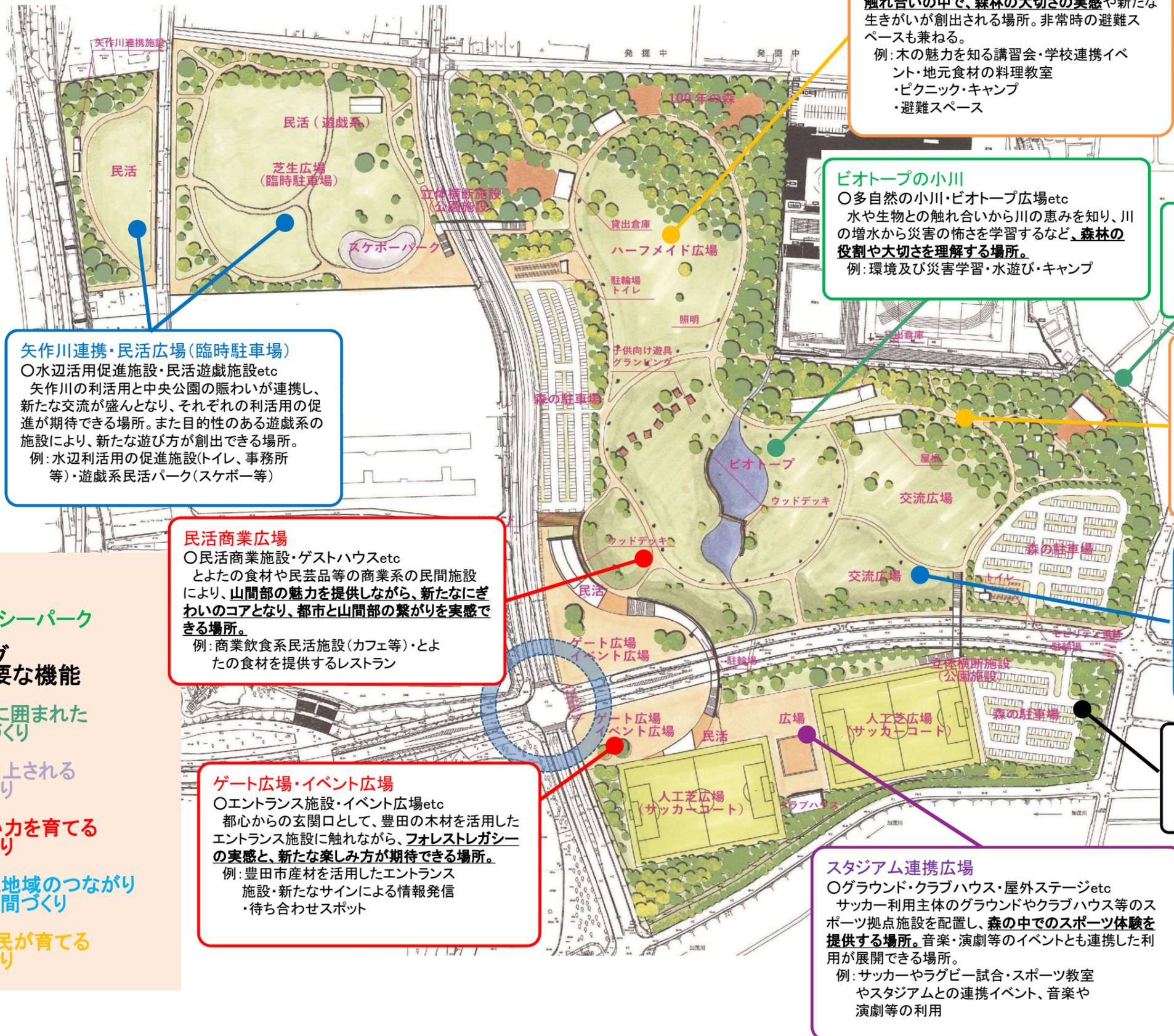
ラジオ体操やヨガ等の健康体験プログラムを用意、その後全WGでBBQ体験

中央公園第二期整備の都市計画決定について

■第二期整備の計画プラン案

1,000人を超える市民ヒアリングにより導いた「コンセプト」と「5つのゾーニング」を基本とし、その後の推進会議、有識者会議、そして市民ワークショップでの意見を参考に、市民が求める公園の計画プランを作成する。

- **コンセプト案**
- (仮称)フォレストレガシーパーク
- **5つのゾーニング**
= 必要な機能
- ① 緑・川・自然・森林に囲まれた癒しの空間づくり
- ② スポーツ・文化を向上される空間づくり
- ③ 家族で楽しむ・若い力を育てる空間づくり
- ④ 多世代・多国籍・他地域のつながりをつくる空間づくり
- ⑤ 生きがいづくり・市民が育てる空間づくり



ハーフメイド広場
○ハーフメイド広場・連携広場etc
市民自らがやりたいことが実行でき整備や管理から関わり、**フォレストレガシーとして自然との触れ合いの中で、森林の大切さの実感**や新たな生きがい創出される場所。非常時の避難スペースも兼ねる。
例: 木の魅力を知る講習会・学校連携イベント・地元食材の料理教室
・ピクニック・キャンプ
・避難スペース

ビオトープの小川
○多自然の小川・ビオトープ広場etc
水や生物との触れ合いから川の恵みを知り、川の増水から災害の怖さを学習するなど、**森林の役割や大切さを理解する場所**。
例: 環境及び災害学習・水遊び・キャンプ

外環の森
○樹林帯・花畑広場etc
市民が植樹から関わり、整備や管理に継続して取り組むことで、生きがいを感じながら、**森林が大切に身近な存在として認識する場所**。

自然体験・遊び・学び広場
○アスレチック・木工体験・冒険の森etc
市産材を使ったアスレチック遊具や木工体験、森の中の生物観察等により、自然や文化に触れ合うことで、**森林の大切さや価値を認識する場所**。
例: アスレチック・木製遊具・木工体験・植生学習・ピクニック・冒険キャンプ・BBQ

交流広場・イベント広場
○交流スペース・イベント広場etc
山間部の食材を販売するイベントや軽トラ市により、**山間部の魅力を提供しながら、新たなにぎわいや都市と山間部の繋がりを実感できる場所**。
例: 山間部の魅力を提供する軽トラ市や食材マルシェ・文化を発信する交流イベント

森の中の駐車場
○駐車場
公園利用者の駐車場を停車場線沿いに配置。**木に囲まれた仕様で、フォレストレガシーを実感できる駐車場**

スタジアム連携広場
○グラウンド・クラブハウス・屋外ステージetc
サッカー利用主体のグラウンドやクラブハウス等のスポーツ拠点施設を配置し、**森の中のスポーツ体験を提供する場所**。音楽・演劇等のイベントとも連携した利用が展開できる場所。
例: サッカーやラグビー試合・スポーツ教室やスタジアムとの連携イベント、音楽や演劇等の利用

民活商業広場
○民活商業施設・ゲストハウスetc
とよたの食材や民芸品等の商業系の民間施設により、**山間部の魅力を提供しながら、新たなにぎわいのコアとなり、都市と山間部の繋がりを実感できる場所**。
例: 商業飲食系民活施設(カフェ等)・とよたの食材を提供するレストラン

ゲート広場・イベント広場
○エントランス施設・イベント広場etc
都心からの玄関口として、豊田の木材を活用したエントランス施設に触れながら、**フォレストレガシーの実感と、新たな楽しみ方が期待できる場所**。
例: 豊田市産材を活用したエントランス施設・新たなサインによる情報発信・待ち合わせスポット

矢作川連携・民活広場 (臨時駐車場)
○水辺活用促進施設・民活遊戯施設etc
矢作川の利活用と中央公園の賑わいが連携し、**新たな交流が盛んとなり、それぞれの利活用の促進が期待できる場所**。また目的性のある遊戯系の施設により、**新たな遊び方が創出できる場所**。
例: 水辺利活用の促進施設(トイレ、事務所等)・遊戯系民活パーク(スケボー等)

■ 5つのテーマとSDGsの達成

豊田市は日本の代表事例としてSDGs 未来都市に選出されました。SDGs (Sustainable Development Goals)とは2015年9月の国連サミットで採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に盛り込まれた17分野の目標の事で、SDGs 未来都市の提案書において豊田市は環境・社会・経済の三つの側面からの達成を示しています。中央公園が空間づくりの5つのテーマを掲げる事で、企業や行政がこれらの目標に関わる活動やそのきっかけを展開していくプラットフォームとしても機能する事が期待できます。

①緑・川・自然・森林 に囲まれた癒しの空間づくり

広葉樹林体・散策路・芝生広場・渋川の再生

②スポーツ・文化 を向上させる空間づくり

グラウンド・散策路・多目的広場

③家族で楽しむ・若い力 を育てる空間づくり

ゲート広場・民活施設・レストラン・プレイパーク

④多世代・多国籍・他地域 のつながりをつくる空間づくり

ゲート広場・芝生広場・コミュニティ拠点

⑤生きがいつくり・市民 が育てる空間づくり

ハーフメイド広場・間伐材アスレチック・ビオトープ・散策路

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGsに記された17の目標

中央公園の
テーマに
関連する
項目

【環境】環境モデル都市の経験や実績を活かした低炭素化の推進



緑の内環を繋げ、質の高い緑の展開を促し、さらに積極的な市産材の木材利用を行う場とする事で健全な森林形成に寄与する活動を促します。

【社会】多様な担い手が支える新たな社会システムの構築



多世代多国籍のつながりに向けた場を提供する事で、属性の違うもの同士が交流し合うような機会を生みます。

【経済】多様な担い手が支える新たな社会システムの構築



民間活力が導入されるエリアや、イベントや商業的活動の場を用意する事で多様な働き方を受け止める場として機能し、またその活動による経済の活性化が期待されます。